

第3回議会報告会の概要

館山市議会主催の議会報告会も今年で第三回目の開催となり、10月29日（日）午前10時から1時間30分の時間で船形、館野、神戸富崎地区の3会場で開催をしました。

台風22号の接近が危惧される中での開催でしたが、昨年を上回る市民の皆様の出席をいただき、有意義な意見交換をすることが出来ました。

今回は「ストップ・ザ・人口減少」をテーマに掲げ、様々な視点での話し合いにより、議会や行政に対する意見・要望などを伺いました。

今、地方自治体の抱える課題の多くは人口減少に起因することが少なくありません。このことを全市的に考え、各々の立場でどのように改善への努力を為すかという官民協働のまちづくりが求められています。

地方創生に向けた行政の示す総合戦略を見据えながら、市民と議会が共に、その展開を見極めていくための議会報告会として今後も続けてまいります。

第1班 第一中学校区

（若潮ホール、参加者23名）



（左から）

瀬能 孝夫（司会）
吉田 恵年（班長）
石井 敏宏（総務報告）
森 正一（文教民生報告）
今井 義明（建設経済報告）
本多 成年（記録）

第2班 第三中学校区

（館野公民館、参加者14名）



（左から）

鈴木 順子（司会）
本橋 亮一（班長）
太田 浩（総務報告）
石井 敬之（文教民生報告）
龍崎 滋（建設経済報告）
福岡 信治（記録）

第3班 房南中学校区

（神戸公民館、参加者14名）



（左から）

榎本 祐三（司会）
石井 信重（班長）
内藤 欽次（総務報告）
望月 昇（文教民生報告）
室 厚美（建設経済報告）
鈴木 正一（記録）

報告会の内容

式次第

1. 議員自己紹介
2. 議会報告
 - (1)総務委員会報告
 - (2)文教民生委員会報告
 - (3)建設経済委員会報告
 - (4)決算審査特別委員会報告
3. テーマ「ストップ・ザ・人口減少」
 - (1)班長説明
 - (2)事前質問・意見の紹介
 - (3)質疑・応答等
4. その他の質疑・応答等
 - (1)質疑・応答等
 - (2)市に対する意見・要望等

以上の次第によって、報告会が進められました。

意見交換会での意見や質問等

議会報告（3 常任委員会報告）

（1）市議会への主な質問及び回答

問① 市庁舎積立基金を取りくずすことについて、三中と給食センター以外にどのような大規模事業があるのか。

答① ゴミ処理施設に関するものがあります。

問② ゴミ処理施設について、3 市 1 町での建設計画が頓挫している中で、君津市他との連携の話があるが、どうなっているのか。

答② 館山市は現施設の改修をしながら、広域での新施設の建設に関する費用負担が財政的に困難なために離脱をしたが、上総 4 市との連携については、館山市以外の 2 市 1 町で調査中であり今後については不透明である。

問③ 給食センターの建設は、いつ頃行われるのか？

答③ 現在、建設費の見直しを行っております。その為に規模を縮小し設計変更を行っておりますので、建設の着工については未定です。

問④ 設計変更について、どのくらいの費用が掛かるのか？

答④ 設計変更による費用は、およそ 500 万円かかります。当初の建設費は 2 3 億円でしたが、設計変更後は 1 8 億円程度を見込んでいるようです。建設費用が 5 億円ほど削減できれば止むを得ないと思います。

問⑤ 第三中学校の耐震対策について、いつ頃決定をするのか？

答⑤ 今年度中に方向性を決定する予定です。

問⑥ スクールバス運行にあたり、通学区域外の子供も乗車させてもらえないのか？

答⑥ スクールバス乗車について、バスには定員があります。また、学区内の距離規定があり、誰でも乗車することはできません。

(2) 市議会に対する意見・要望

問① ソーラーパネルの設置と同様に、富崎地区で小型風力発電を3基設置すると業者から申し入れがあり、富崎地区は自然公園法には該当せず、環境課にも聞いたところ設置に関する条例の見込みはないとのこと。議員はもっと勉強する必要がある。

答① ソーラーパネルだけでなく、小型風力発電にも問題があるとのことですので、議会として議論します。また、執行部には必要により申し入れます。

(3) 行政への意見・要望

① スクールバスの学区内距離規定の見直しをして頂きたい。館野地区の九重寄りの地域は3km近くあります。雨天時には、車での送り迎えの為に、第三中学校の前は、大渋滞を起こします。危険回避のためにも見直しをお願い致します。

【「ストップ・ザ・人口減少」】

(1) 市議会に対しての質問

問① 人口減少の原因となる館山の特色を緻密なデータにより分析するべきだと思う。対策につながるデータを示して欲しかったが、そのような分析はしていないのか。

答① 原因については分析をしているが、具体的な対策が十分にとられているとは思えない。館山は求人倍率が高いものの、ミスマッチが発生している。

問② 今、館山で大きく増えたものが耕作放棄地と老人介護施設の二つだが、原因は第一次産業従事者の減少が原因と思うが、農地の集約化により産業化できるのではないか。また、介護施設が良質な職場になれば人口減少を防ぐ手段になると思うが、原因と対策をどのように考えるか。

答② 耕作放棄地が年々増加して、太陽光パネルの設置が増え憂慮している。放棄地の増加は農業で生活できないからであり、市としても真剣に取り組む必要があります。介護施設は増えているが、従事者の賃金のアップや介護度が低くても入所できるような制度と支援が必要と思う。

問③ 多様な仕事を創ることについて、具体的な施策はあるのか。また、予算面は大丈夫か。

答③ IT系の企業誘致をしていきたい。また、子育て支援策に力をいれ、スクールバスの運行や学童クラブの公設化など、保護者の負担軽減に努め予算化している。

問④ こどもが病気だと仕事も休まなくてはならない。どうしたらよいか。

答④ 病後児保育などがあるが、数が少ないので要望をしている。幼児の預かりについて

は、北条幼稚園のみであるが、朝7時から行っている。

問⑤ 高校・大学を卒業して館山に帰ってくる人には奨学金を返さなくてよい制度や、大学に通う交通費の補助などができないのか。

答⑤ 今後、奨学金や交通費については検討をしていきたい。

問⑥ 市議会として人口増はどこをターゲットにしているのか。若い人を増やした方がよいのではないのか。

答⑥ 高齢者の移住が悪いことではない。議会としては年齢を問わず人口増に向けた施策を検討したい。

問⑦ 財政が火の車ではないのか。議会は何でもOKのようだが不安だ。

答⑦ 予算は足りていません。その様な中で吟味して決めています。賛成ばかりではなく、チェック機能は果たしており、修正もしている。

(2) 市議会に対する意見・要望

問① 人口減少は避けられないと思いますが、国の補助金をあてにしないで固定費の職員、議員の削減をしたら良いのではないのか。

答① 行財政改革は12年前から進め、議員の報酬を減らすのが良いか議員定数を減らすのが良いか議論をして25名から20名、現在は18名に減らした。

館山市は他市町よりいち早く行財政改革を進め、職員は現在406名で人件費は37億から32億円に削減をした。

(3) 行政への質問と回答（行政に関する質問）

問① 12年前に館山に移住したが高齢者には最高の場所だ。別荘が良ければ子供も館山に来る。高齢者の移住も消費に貢献している。家庭の排水で20万円を払ったが、前もって説明が欲しい。

答① 高齢者や別荘に来る人の移住者を増やすことは良い。移住しやすいように医療、介護、公共交通に力を入れていきます。排水は農業水路に流すために、排水路の維持管理のために徴収している。

問② 那古小学校、船形小学校の統合はあるのか。

答② 具体的な統合計画はないが、将来的には検討することはありえる。通学の負担が無いように考えていく必要がある。

問③ 「だん暖たてやま」によると予算がないと言われているが、人口減少についての政策のために財源はどのように考えているか。

答③ いろいろな施策のために国、県からの補助金を有効に活用しています。

大きな事業を進める事は難しいので有利な補助金を見つけ取り組んでいる。人口減少をストップさせるために、産業振興や子育て支援をすることが人口減少に繋がると考えます。

財政全般を見ると、歳入として市税等の収納率を上げる。ふるさと納税の寄付をしていただく。市民の理解を得ながら使用料・手数料の見直しをする等の取り組みが必要である。

歳出では人件費の削減、公共施設の維持管理の検討、扶助費の削減の対策などで財源を生み出す工夫をしている。

問④ 本当に市の職員 406 名で適正なのか、サービスが低下していないか。
行政がどこまでやるのか、財源を含め行政のあり方をもっと話し合う必要がある。

答④ 〈議員の複数回答〉

広域の消防では人件費を含め年間 27 億円だが、人口減少が進む中で話し合いを始めている。

税収を増やすことも考えるべき。

人口増には、子供のいる世帯や納税の出来る人が来るような施策が大事。

観光面では賑わいの創出だけでなくターゲットを絞り、民間の視点も含んだ施策の明確化が必要である。

市民といちばん結びついている議員の定数を減らせばよいというものではなく、市の職員の 6 割が正規職員、4 割が非正規職員であることから職員数をただ減らせばよいというものでもない。

移住定住を増やすにはインフラの整備や、第 1 次産業の育成により移住者を増やす方策も必要で、人口増による税収増を市政に活かしていくことが大事である。

問⑤ 館山に戻ってきたが、市は良いことしか言わない。私は住みたくない。紹介もしたくない。税金が高い。交通ルール等のマナーも良くない。

答⑤ 館山も大変に良いところだと思います。暖かいし、人も優しく良いところもあると思います。地域の人たちと交流も出来ると思います。

問⑥ 渚の駅の商業施設等をもっと活かして拡充をしないのか。

答⑥ 財源が少ない。旧公設市場用地を「道の駅」にしようとした計画で民間公募をしたが応募がなかった。現在は軽トラックでのマルシェを行っている。もっと商業施設等を活かしていかななくてはならない。

問⑦ ふるさと納税について伺います。

答⑦ ふるさと納税の仕組みをもっと知って頂きたい。館山市民の市外への寄付は多くないが、館山市への寄付も多くない。今年から市民が館山市に寄付をした場合でも返礼品がもらえる仕組みになったので是非していただきたい。返礼品として宿泊券のような、館山に来てもらえるようなものがよい。

問⑧ 2010 年に移住してきたが、その頃から 3000 人の人口減になった。

観光や農漁業等の仕事出来る若い人を呼び込む必要がある。もっと地域の魅力を活かし館山らしさを出すべきだ。

答⑧ 議員の複数回答

視察等で地域の特性を活かした取り組みを参考にしています。また議員発議で「地産地消条例」を審議していますので、パブリックコメントや今後の協力をお願いしたい。館山市の総合戦略の中に、目標・数値を設定して、海を活用したマリンレジャーに関する事業や観光関連のセミナーが開催されています。現在空き家の調査をしています但有効活用も大事である。

(4) 行政に対する意見・要望

- ① 今、多くの自治体が注目し、自然を活かした保育を支援している事例がある。「森の幼稚園」のような豊かな自然を資源として幼児教育を推進することにより、参加したい人の移住促進につなげることが出来ると思います。館山市でも取り組んでほしい。
- ② 若い人の結婚に対する考え方が様々な中、もっとシングルマザーに対して温かい目を向けて支援するような国の政策が必要だと思う。その様な要望を県、市からもすべきだと思う。
- ③ 沖縄では離婚しても同居しながら、国からの支援を受けて暮らしている人が多く、問題化している。離婚率が高いこととあわせ国が人口減少にしっかり取り組む必要がある。
- ④ 退職後に館山に帰ってきたが、高齢者に対する多様な仕事を作ることも大事である。生活手段が出来れば高齢者と共に家族でかえってくるのではないだろうか。
- ⑤ 安房医療福祉専門学校で看護師の養成をしているが、福祉関係の資格が取得できる専門の課を設置することも必要と思う。地元で資格が取れば地元の福祉関係の職場につくことが出来る。市としても考えて欲しい。

【その他、意見交換】

(1) 市議会への意見・要望

- ① 今回はテーマを決めて行った事は大変よかった。
- ② 議員との意見交換の機会をより多く設けて欲しい。

(2) 行政に関する質問と回答

問① 漁業振興に力を入れたらどうか。必要な予算を確保するために船形バイパスは考え直したほうが良いのではないか。

答① 漁業と漁業以外の仕事にもつながるために、船形バイパスは必要と考えている。漁業振興のために漁協の統一が必要と考えている。流通や6次産業化を図ることが大事。

問② 10年前に移住してきたが 暖かい人が多い。高齢者の仕事をもっと広げた方がいい。耕作放棄地を減らすための「草刈条例」が有ったらよい。

答② 草刈など、地域の中で積極的に関って頂きたい。

(3) 行政への意見・要望

- ① 市内各地に高齢でも優秀な人が沢山いるが活かしきれていない。ボランティアも大事だが地域の安全・安心や市民の繋がりを深めるために、生涯学習課に予算を付け

- て活発化して欲しい。
- ② 館山市と南房総市で音楽のボランティア活動をしているが、教育に予算をしっかりと付けて欲しい。隣接市では教育成果が出ているようなので、館山市でも予算を付けて取り組んで欲しい。
 - ③ 現在、館山市内の住宅用火災報知機の設置率は36%とかなり低い状況です。高齢者のみの住宅も多く火災の際の避難遅れも懸念されます。高齢者の住宅に対して住宅用火災報知器の設置について助成できる制度をつくっていただくと共に、市全体の設置率を上げられるように努力していただきたい。
 - ④ ソーラーパネルの条例、風力発電の条例も検討して欲しい。
 - ⑤ 今まで活躍してきた世代が高齢化してきた。今、ご近所の力が必要であり、市がその連携を進めて欲しい。
 - ⑥ 巡回バスをブロック割にして20分ごとに出せば高齢者は助かり事故防止にもなる。定期券を出してスクールバスの混乗化もできればよい。

結びに

第3回の議会報告会の開催にあたり、前回のアンケートでの、「資料やレジメ等の配布による解りやすい議事進行を望む。」との要望に応え、資料を配布しました。また、議会側からの一方的な報告ではなく、市民との活発な意見交換の場とするために、「ストップ・ザ・人口減少」のテーマを掲げました。

大変に大きなテーマでしたが、人口減少の原因やその影響など、その対策について活発な議論が展開されました。

人口動態については、いかに人口流出を食い止め転入者を増やすか、館山の特性を明らかにした詳細な分析データによるべきであることや、若年層に限らず幅広い年齢層の働く場の確保が重要であるとの意見が出されました。

現在、地域資源有効活用調査特別委員会では、「地産地消推進条例の制定」に向けて、パブリックコメントを募集するところまでこぎつけました。

この条例の目的は、館山市が目指す「食のまち」に向けて、官民一体となった地域振興を目指そうというのですが、同時に、議会発議の政策条例として、議会改革の一端を示す大きな取り組みと言えます。条例の施行後は、この条例が活かされるよう、議会が積極的に地域再生の提言を行い、人口減少対策に繋がるよう努めてまいります。